

いすみ市長者町に百合子文学碑の話

文人墨客が訪れた

外房・いすみの地

筆者は、太平洋に面した外房・千葉県のいすみ市岬町に住んでいる。千葉駅からJR外房線で1時間ほどのところで、古くから房総の別荘地とされていた。九十九里海岸の南端・大東崎には灯台がある。そのすぐ南側には夷隅川が流れており、昔は鰻も獲れ、川魚料理の旅荘もあった。

日比谷公園の松本楼に所縁の梅屋庄吉（明治元年～1869）昭和9年（1934）の別荘もあり、その縁で孫文も訪れ、蒋介石も滞在していた。また、森陽外（文久2年～1862）大正11年（1922年）も別荘一鷹荘で過ごした。

また、林美美子（明治36年～1903年）昭和26年（1951年）の『放浪記』にも登場する。実はプロレタリア文学作家・宮本百合子（明治32年～1899）昭和26年（1951）は、1945年5月9日に妹の寿江子が

地元力発見！

佐藤建吉 「洗楓座」代表

その背後には6畳ほどのプレハブハウスがあり、宮本百合子全集などが、床に無造作に置かれていた。実はプロレタリア文学作家・宮本百合子（明治32年～1899）昭和26年（1951）は、1945年5月9日に妹の寿江子が

三門駅は、筆者が利用する駅である。筆者はそれより千葉寄りの長者町駅も利用しているが、最近、その駅近くにある「宮本百合子の石碑」との関係ができた。

文人たちとの所縁を生かす

エコミュージアム

筆者は、プレハブの中の本が可哀想だと思い、昨年暮れに、石碑に設置してある沼波勇一氏の電話番号に電話したが、繋がらず

苦慮していた。その後、地元の市議会議員の井上ひとみ氏が沼波氏に照会してくれ、早速、1月末に沼波氏が長者町に来て下さり、石碑と本の活用について意見交換をすることができた。その結果、プレハブハウスの中の所蔵本を書籍にも地域資源として利用することになった。

筆者は、冒頭に述べた、梅谷庄吉、蒋介石、森陽外、林美美子などど当地の所縁を生かしたエコミュージアム活動を展開すること

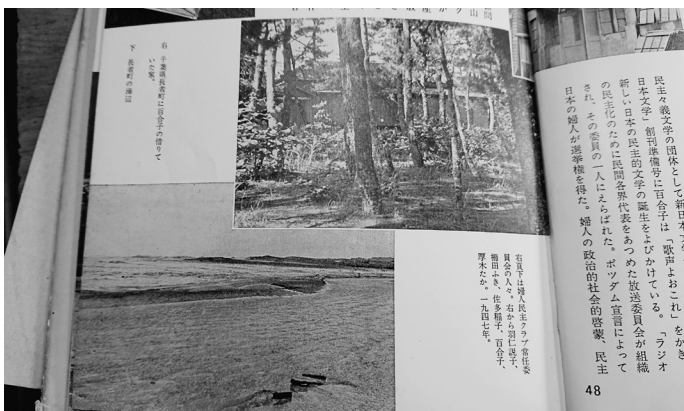
（新日本出版社）第1巻～25巻『宮本百合子選集』第1巻～12巻、『初期プロレタリア文学集』1～5（同）、『日本プロレタリア文学評論集』（同）、34冊、『宮本顕治著作集』ほか（同）14冊、『マルクス資本論』（同）、4巻、『レーニン選集』12冊、美術、『現代美術選集』（講談社）18冊、ほか総数150冊。



石碑を寄贈した沼波勇一氏



整備された収蔵書



百合子が借りていた長者町の家と当時の海岸（『日本文学アルバム』より）

を構想している。そのためには、宮本百合子の著作の読書会などを町民とともに、住民が学芸員としての役割を演じられるようにすることを考えている。入門書として、『日本文学アルバム宮本百合子』（筑摩書房、1980年）と『宮本百合子展』（西武美術館、1982年）は、写真があり、わかりやすい。この中には、長者町の百合子が訪ねた家も掲載されている。

1950年山形生まれ。東京都立大院卒。元千葉大学工学部准教授（金属疲労専攻）。金属疲労の研究のほか、他分野のテーマの研究開発に努めるとともに日本各地の地域おこし活動に従事する。ローカル鉄道と地元酒蔵のコラボで地域再生を図る地酒「鐵の道」の製造・販売を企画、すでに10件を超える銘柄を送り出している。一般社団法人洗楓座代表。「全国ふるさと大使連絡会議」理事

本百合子選集（同）第1巻～12巻、『初期プロレタリア文学集』1～5（同）、『日本プロレタリア文学評論集』（同）、34冊、『宮本顕治著作集』ほか（同）14冊、『マルクス資本論』（同）、4巻、『レーニン選集』12冊、美術、『現代美術選集』（講談社）18冊、ほか総数150冊。

なお、沼波氏によれば、亡妻が宮本百合子の本が好きであったので自分も読んでみて、感銘を受けたので、土地を求め、石碑を2014年に設置したという。